

選定委員会委員長の審査講評（設計者の選定理由）

西尾市生涯学習センター（仮称）設計者選定委員会 委員長 千葉 学

最終審査に残った 5 案は、それぞれが全く異なる方向性を持った提案でしたが、この敷地、このプログラムならばどれも大いに可能性のある案だと、高く評価されたものばかりです。

最終審査においては、全てのチームのプレゼンテーションを聞いた後に、各選定委員がそれぞれの提案に対し、評価する点、懸念点などを一つ一つ丁寧にコメントし、その議論を受けて一旦投票しました。しかし投票結果だけで結論を導くことはせず、得票数の少ない案についても、さらなる案の読み込みと議論を行い、案の可能性、実現性などの観点から精査しました。その上で再び議論を重ね、最終的に最優秀案、優秀案、佳作を決定しました。

最優秀案となった斎藤信吾建築設計事務所の案は、敷地の外周に沿って「逍遙空間」と呼ぶ回廊状の空間を設け、そこにぶら下がるように多世代交流広場やあゆみ学級、コンパスなどの目的室を連ね、さらにこれらの部屋群に囲まれるようにして公園を配置するという提案です。様々な目的、多様な利用者が使うことになる生涯学習センター（仮称）において、それぞれの部屋の独立性やプライバシーを担保しつつ、逍遙空間を介し、また公園を介して多彩な交流を築こうとする狙いは、施設の趣旨を的確に捉えたもので、魅力的です。またこの公園を、近隣の学校に通う児童も自由に通り抜けられるようにしているところは、ここでの活動が地域にごく自然に浸透していくことにも繋がりそうで、好感が持てます。果たして逍遙空間は単なる廊下にはならないのか、各部屋と公園のつながり方は単調ではないか、分棟は管理が難しくないかなど、いくつかの懸念点も指摘されましたが、こうした点は、今後具体化する過程で発展的に解決できるポテンシャルがあること、また各部屋の配置や繋がり方や将来に向けての用途変更など、長期にわたって使用される公共施設に必要な可変性も備えている点を高く評価し、最終的に最優秀案に選定しました。

優秀案となった株式会社 ihrmk の案は、帯状の空間が湾曲したり寄り添ったりしながらひとつながりの空間を作る平面計画に最大の特徴があります。一体の空間でありながら、大きな広場や隙間状の庭を介して付かず離れずの関係を築いている点は、生涯学習センター（仮称）の特質を的確に捉えていて実に秀逸です。また片流れの屋根が時に合体して切り妻屋根になり、敷地のそれぞれの方向に正面性を与えている造形も巧みです。しかし屋根を支える構造体は、流通材を使ってできるところは高く評価された一方、複雑な形状故に間仕切りや建具などを簡便な方法で設置することができず、独立した部屋を設けたり、将来にわたって間仕切りや用途を変更したりという柔軟性に欠ける点には懸念も示され、最後まで最優秀案を争いまし

たが惜しくも優秀案となりました。

砂越陽介一級建築士事務所の案は、パークプレートと呼ばれる大きく湾曲する屋根面がそのまま公園となり、捲れ上がった三角形の頂点にそれぞれの施設が配置され、さらにパークウインドウと呼ばれる部屋を介して三つの場が繋がる場所に特色のある提案です。明快なコンセプト、敷地全てが公園化されること、パークウインドウを介した施設と公園との一体利用など、公園としても生涯学習センター（仮称）としても新しい場が生まれることが期待される提案でしたが、実際には公園と大地とのつながりは思いのほか少なく、公園が単なる屋上庭園になってしまうのではないかと、また維持管理に過大なコストがかかるのではないかと懸念も拭えず、惜しくも佳作となりました。

株式会社タトアーキテクツの案は、住宅的なスケールの切り妻屋根が連なり、ヒューマンなスケールでこの施設全体が組み立てられているところに特徴があります。この穏やかな佇まい、また住宅的なスケールで展開する内部空間も魅力的で、心地よい奥行き感がどこにいても感じられるものです。しかし一方で施設中央部がかなり暗い場所になりそうなこと、また小さなスケールだからこそおおらかな空間が取れず、どこに行くにも目的性の高い行動容態になってしまいそうな点がこの施設のデリケートな側面と相容れないとの意見もあり、惜しくも佳作となりました。

株式会社千田建築設計の案は、建物を高層化することで、既存の公園を最大限継承する提案です。地域の方々に親しまれてきた公園がそのまま残ること、高層化されることで周囲を見渡す高い視点場が生まれること、また各階の周囲には大きなテラスが巡り、特に低層階においては公園の延長として積極的に使われる可能性がある点など、よく練られた提案です。ただ、貸室群が上階にまとめられ、他の場所との相乗効果が期待できないこと、また上下移動をエレベータに頼り、同時使用の場合のキャパシティについての不安も残り、やはり惜しくも佳作となりました。

どの案も大変熱意のある、力強い提案ばかりで、正直なところ甲乙つけ難いものでした。どの案ができて、おそらくこれまでにない生涯学習センター（仮称）が西尾市に誕生することは間違いないと確信させてくれるものでした。このような提案をしていただいた応募者の皆様方に、選定委員一同改めて深く敬意を表したいと思います。

最優秀案は、まだまだ検討の余地はあると思いますが、この案の持つ可能性に賭けてみようという選定委員一同の想いが託されています。実現した暁には、この案を選んでよかったと西尾市の方々に喜んでいただけるよう、素晴らしい建築を実現して下さることを願っています。